ＥＳＤＧｓ通信20201127　ユネスコスクール全国大会　 手島利夫です

皆さん、こんにちは。お世話になっております。

今回は、ユネスコスクール全国大会の話題です。

**ＥＳＤ研究大会「２０３０学校教育のグラウンドデザイン」**

～持続可能な社会を構築するためのＥＳＤ，ＳＤＧｓ、ユネスコスクールの役割～

　今年のユネスコスクールの全国大会は、残念ながらＷＥＢ開催になりました。別に少しも驚かないですけれどね・・・。

 （ 明日の○○県教育委員会のＥＳＤ指導者講習会は、現地での対面式ができるそうで、気をつけながらもリスクに見合うだけの成果を出せるようにしたいと考えております。）

　別紙のチラシと抄録をご覧ください。結構いいプログラムも載っています。本当は、私どもの念願だったＥＳＤを理念として全面的に掲げた学習指導要領が小学校から全面実施になった年のユネスコスクール全国大会ですから、そりゃあ、皆でお祝いしたい気持ちもあります。

　でも、コロナのおかげで、持続不可能な世界の方が先に来ちゃったので、もう、笑うしかありません。ワッハッハッハッハ～！

　それでも俺たちはあきらめの悪いやつら。何とか粘って、持続不可能な世界にお引き取り願えないか、「みんなで何とか取り組んでみようぜ！」なんて言ってます。根っからだめだね。

　さて、今年度は学習指導要領に明記された理念や具体策が学校の現場でどれだけ意識することができたのか、「社会に開かれた教育課程って言うけれど、どこをどのように見直せばいいのかしら」なんて声にも応えるような分科会をたくさん作っています。

　また文科省のご意向で2014年の岡山宣言がどこまで進んできたのか見直しの意味も含めた分科会にもなるようです。進んでいる点も、まだまだな点も含めて見直してこれからの推進力にしていきましょう。

　私たちの午後の第２分科会は、教育目標や教育課程の改革に取り組んで大きな成果を挙げつつある３校の校長先生方に事例の発表もしていただきながら、コミット：提言①②④⑪について振り返りもします。各学校に「喝」を入れるようなお話もさせていただきます。

　東京都に異動になった中○さんが「午前の部を全部つぶしてこれだけやればいいのに」という顔をしていましたが、そうもいきません。なぜなら、喝が止まらなくなる恐れがあり、極めて危いからです。

　今回はまず、東京都から、多摩市立浅川小学校長の清水弘美先生に、伝統ある学校の教育目標をいとも軽々と変えてきたその意気込みとパワーの秘密にふれていただきます。○○省での会合を抜け出して発信に駆け付けてくださいます。（暴走校長の名前を引き継ぐかもしれませんね）

　そして穏やかに燃える男、千葉県は、八千代市立大和田南小学校の田中一成校長先生。同校の国際理解の蓄積とイマ―ジョン教育を結び付けた実践辺りを語ってくれるのでしょうか。楽しみです。

　そして埼玉県は久喜市。柿沼教育長さんの気合を正面から受けて、ＥＳＤに取り組んできた久喜市立栗橋西小学校の白石二三恵校長先生は、学習指導要領の理念も具体策も真正面から受け止めて、優れた教育課程を編成されました。このお取組みは多くの学校が教育課程を編成する際のいいお手本となるのではないかと思っております。ぜひ、自校の参考にしてください。

　３人の個性豊かな方々の話を踏まえつつ、学習指導要領改訂とＥＳＤの推進について具体的なお話が進むといいなと思っております。

　第２分科会以外も、素敵な発表者や的を射抜く指定討論者を迎え、それぞれ充実した時間がもてるものと思います。

　実は申し込みは、この27日までとのことです。今回の全国大会は史上初めて全国どこから参加しても交通費も宿泊費も、参加費までもかからない大会です。奮ってご参加ください。

多くの皆様方と画面を通じて出会えることを楽しみにしております。

参加申し込みは　　　<http://www.jp-esd.org/conference2020/> です。チラシにも掲載されています。

　寒さが厳しくなってきました。一層ご自愛ください。



「ＥＳＤ・ＳＤＧｓを推進する手島利夫の研究室」　手島利夫

　　　　　　　事務所：〒130-0025　東京都墨田区千歳１－５－１０

　　　　　　URL=https://www.esd-tejima.com/

 　　　　　Ｍａｉｌ＝contact@esdtejima.com

